

【報告】入賞作品が決まりました。

「令和7年度 松江市介護の日コンテスト」について、イラスト部門 122 点、エピソード部音 30 点、フォト部門 3 点、合計 155 点とたくさんの作品をお寄せいただきました。

厳正なる審査の結果、以下のみなさまが入賞されました。

【イラスト部門 小学生の部】

**最優秀賞**

松江市立義務教育学校玉湯学園2年 <sup>くりす あらた</sup>栗栖 新さん

「ぼくのたいせつなおじいちゃんとおばあちゃん」

応募者コメント: ぼくのおばあちゃんはとってもやさしいです。おじいちゃんはいつもおばあちゃんをたすけてくれます。



**優秀賞**

松江市立中央道小学校5年 <sup>うえだ しょうき</sup>上田 祥稀さん

タイトル「自分の町の社長さん」

応募者コメント: 夏休みに社会科見学に行つて社長さんと見せてもらった物を描きました。



【イラスト部門 中高生の部】

**最優秀賞**

松江市立第三中学校3年 <sup>おかた さな</sup>岡田 紗奈さん

タイトル「長生きしてね」

応募者コメント: ずっと元気でいてね。大好きなじじ、ばばへ。



優秀賞: 島根県立松江農林高等学校3年 <sup>わだ れな</sup>和田 鈴菜さん  
タイトル「空と地をつなぐ2人」

応募者コメント: おじいちゃんは亡くなっているけど、みんなの心に生き続けていることをイラストに表現しました。カメラにはおじいちゃんがないという事も工夫しました。



【イラスト部門】

学校賞: 島根県立松江農林高等学校 (102点応募)

【エピソード部門】

最優秀賞

島根県立松江農林高等学校3年 <sup>わだ れな</sup>和田 鈴菜さん  
タイトル「私の思う介護の在り方」

私は高校生に入るまで、「介護」と聞くと食事や入浴、排泄など生活をする上での身体の介助をする事だと思っていた。高校に入学し、介護を専門的に学んでいく中で私の中の介護という概念が大きく変わった。私には認知症を患う祖母がいる。祖母の記憶の中では、私は中学三年生を生きている。しかし、私は今大学受験を控える高校3年生。祖母はいつも「高校受験頑張ってね」と応援してくれる。その度に私は中学三年生に戻り祖母と会話をする。その時に私は思った。介護というのは、身体を支えることだけではなく、その人が生きている現実の中に入り込み、時間を共にするという事だ。その人の思い描く世界を、現実に戻すのではなく、一緒に楽しむことなのではないのだろうか。祖母の記憶が、更新され続けなくても私は何度でも中学三年生に戻るだろう。祖母の記憶の中での私も、大学受験を控える高校三年生の私も笑って終われる結果になりますように。

優秀賞: <sup>おかだ</sup>岡田 さおりさん

タイトル「後悔を生きる力に変えて」

幼い私を引き取り育ててくれた養父母。私が九歳の時に倒れた姑を三年半もの間、養母は一人で介護していた。今でいう要介護5の状態。疲労困憊の中、養父が急逝した。姑の介護に明け暮れ

夫の異変に気付けなかったと自責の念に苛まれ病んでいった。心因性喘息となり夜中に度々呼吸困難の発作に見舞われ、救急外来に搬送し入退院の繰り返しとなった。

ある晩の点滴中に「私がいなくなればあなたは楽になるのに。ごめんね」と言う養母に「そうだよ。早く死んでよ。もう嫌だ」と言った。十代の私に重くのしかかる介護に疲れていたとは言え恩ある養母に死んでよと言ったあの日の私を消してしまいたいとずっと思ってきた。その私がケアマネジャーとして日々利用者さんとご家族に育てていただいている。介護は時に孤独で先が見えない。しかし尊い行いである。全世代対応の、誰も取りこぼされることのない共生社会の実現に向けて微力ながら私の経験を生かしていきたい。

**優秀賞：しまねっ子さん**

**タイトル「介護する側になって」**

深夜2時、再び名前を呼ぶ声で目が覚めた。体はまだ布団に沈み込みたがっているのに、心臓だけが急かすように早鐘を打つ。立ち上がり、ふらつく足で部屋に入ると、そこには不安そうな母の顔があった。「トイレ…」その一言に、私は慌てて体を支える。けれど思うように動いてくれない身体は重く、私の腕からずり落ちそうになる。必死で抱きかかえるのに、「痛い、やめて」と拒まれる。胸の奥で何かが崩れた気がした。私は何をしているのだろうか。助けたいのに、怒りと涙が同時に込み上げてくる。息が詰まりそうになりながらも、誰にも聞こえない声で「もう無理だ」と呟いた。けれど、その手を離すことはできない。たとえ心が削れても、ここで支えるのは私しかいないのだ。暗闇の中、静かに震えるその背中を支えながら、当時の私は自分の弱さと、介護という現実の重さを痛感していた。母なき今、あの時の私の感情を胸にしまい今日を生きている。

【フォト部門】

**最優秀賞：小規模多機能型居宅介護もちだの郷**

**タイトル「仲良しの2人」**

応募者コメント：仲のいいお二人のご利用者が器を見て気に入られ、喜ばれているところを写しました。日々この笑顔に癒されながら仕事をしています。



**優秀賞：のんさん**

**タイトル「みかんのばあちゃん」**

応募者コメント：介護される側の祖母でしたが、甲斐甲斐しくひ孫(私の娘)の世話をする姿をみて温かい気持ちになりました。祖母は他界しましたが娘は大きくなった今でも「みかんのばあちゃん」のことを不思議と良く覚えているのです。



応募作品は、松江市 PR イベント「ふくしたのしくなるひ」会場内で展示させていただき、併せて同イベントにて表彰式を行いました。

応募していただいた皆さま、ありがとうございました。

【注意】作品の画像の無断転載・使用は禁止します。